

社会福祉法人島根ライトハウス ライトハウスイブライリーの紹介

(沿革)

- 1958年 2月 島根県盲人協会、島根県盲教育後援会を中心とした「島根ライトハウス設立準備会(代表者:高尾正徳)」が発足
- 1959年 3月 「島根ライトハウス」が社会福祉法人として認可される
- 1962年 8月 点字図書館「ライトハウスイブライリー」(島根県松江市)を開設。初代施設長に高尾正徳氏
- 1971年 5月 ボランティアスクール開講
- 1972年 5月 県立盲学校旧校舎(松江市南田町)を島根県より借り受け点字図書館分館(盲人福祉センター)として開設
- 7月 高尾正徳 日本盲人会連合会長に就任(4期8年)
- 1981年 12月 オリジナル情報誌 声の便り「虹」創刊
- 1982年 7月 点訳・朗読・ガイドヘルパー等のボランティア団体を総括し「ライトハウスイブライリーボランティア連絡協議会」が発足
- 1984年 4月 点字図書館(松江市南田町)を全面改築
- 1990年 5月 創設者高尾正徳(当時理事長)逝去
- 2008年 4月 ライトハウスイブライリー 現在地(松江市南田町)に全面改築
- 2010年 4月 全国視覚障害者情報提供施設協会が視覚障害者情報総合システム「サピエ」の運用を開始
ライトハウスイブライリーもサービス提供を開始
- 2012年 7月 ライトハウスイブライリー創立 50 周年記念事業を実施
- 2015年 10月 高尾正徳生誕 100 周年記念企画展を松江テルサで開催
- 2019年 12月 文部科学省から「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰を受賞



創設者 高尾 正徳



開設時のライトハウスイブライリー

・ライトハウスイブライリーの事業について
ライトハウスイブライリーは視覚障がい者のための情報提供施設です。点訳や音訳による図書・雑誌の貸し出しをはじめ、各種情報提供を行っています。

また、病気や事故による中途視覚障がい者のための相談業務、点字やパソコン訓練、歩行・生活訓練など、各種リハビリテーションを通じて視覚障がい者の自立と社会参加を支援しています。

・ボランティア組織について

ライトハウスイブライリーボランティア連絡協議会は点字・録音図書製作をはじめ、視覚に障がいを持つ方々のサポートを目的に活動を行っています。平成31年5月現在、会員数は280名を超え、支援する活動も多岐にわたっています。

・ボランティア養成について

点訳、音訳ボランティアの養成講習は25回の講習を半年間かけて実施しています。

講習を修了された方がボランティアとして活動をしています。

(平成 30 年度の活動実績と活動風景)

- * 点字図書等: 製作 240 タイトル、貸出 532 タイトル、ダウンロード貸出 2,225 タイトル
- * 録音図書等: 製作 85 タイトル、貸出 10,150 タイトル、ダウンロード貸出 17,200 タイトル
- * ボランティア養成 : 点訳 6 名、音訳 9 名、デジ編集 1 名



現在のライトハウスイブライリー
(島根県松江市南田町 1 4 1 - 1 0)



施設の録音室を使用して、録音図書を製作する音訳ボランティア



施設として地域の小学生の点字学習などの受け入れも積極的に行っています。



年に1回、それぞれ活動中の点訳・音訳ボランティアを対象にスキルアップ研修会を実施しています。



点訳グループは週1回自主勉強会を開催して、自己研鑽に励んでいます。



ボランティアにより製作された点字図書と録音図書



地域の広報誌なども点訳して視覚障がい者の手元に届けています。